

神山町の読書調査

読書班（徳島県立図書館）

新 孝一¹⁾・立石 忠徳¹⁾・田村 加代¹⁾
 奈木 利恵¹⁾・濱口 佳代¹⁾・只安 治¹⁾
 眞本 英司¹⁾・米田 治代¹⁾

1. はじめに

神山町における読書の状況を把握するために、読書班では、アンケート調査を行い、分析・考察をこころみた。

2. 調査の目的と方法

現在の神山町における読書状況の実態や図書館に関する意識を調査することにより、今後の読書活動を推進していくための参考資料とすることを目的とした。

具体的には、平成11年7月、広野小学校、阿川小学校、鬼籠野小学校、神領小学校、下分小学校、上分小学校の3年生以上の児童及び保護者、神山中学校、神山東中学校の生徒及び保護者を対象として、「読書と図書館に関するアンケート」を実施した。あわせて、各校の学校図書館を訪問して見学も行った。

3. 読書と図書館に関する

アンケートの結果と分析

1) 一般成人対象

このアンケートは、神山町内の小学校6校と中学校2校の協力のもとに、小・中学校生の保護者を対象に、359人から回答を得た。以下にその分析を行う。

表1 回答者の男女別年齢分布

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	年齢無回答	計
男性	5 1.4%	0 0.0%	18 5.0%	57 15.9%	6 1.7%	1 0.3%	1 0.3%	0 0.0%	88 24.5%
女性	4 1.1%	4 1.1%	143 39.9%	106 29.5%	6 1.7%	1 0.3%	1 0.3%	4 1.1%	269 74.9%
性別無回答	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.3%	0 0.0%	1 0.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.6%
計	9 2.5%	4 1.1%	161 44.9%	164 45.7%	12 3.3%	3 0.8%	2 0.6%	4 1.1%	359 100%

回答者の構成は、表1のとおりである。上段は回答数を、下段は全回答数に占める割合を表している。これらをグラフ化したものが図1である。年齢・性別に著しい偏りがあるが、これは主に小中学生の保護者を対象としていることによる。

1) 徳島県立図書館

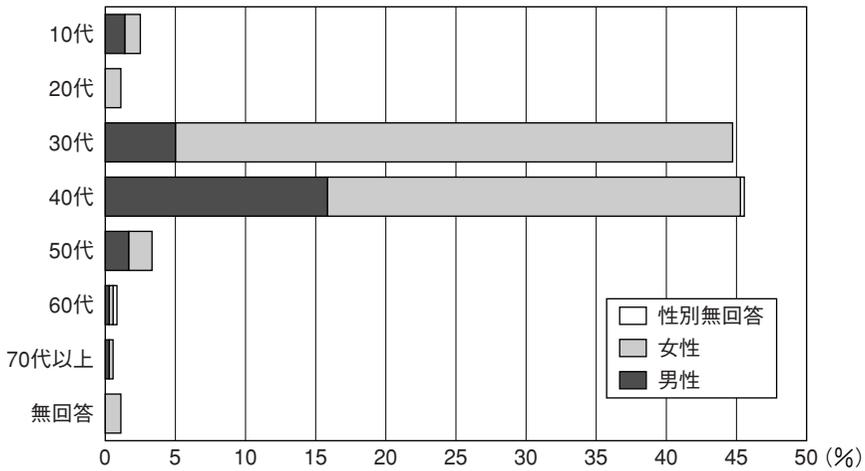


図1 回答者の男女別年齢分布

問1. (余暇の過ごし方について) あなたは、余暇をどのように過ごしていますか。(3つまで○を)

分析：男女ともに、テレビ・ラジオが多くを占めている(図2)。男性の場合はこれに次いで、休息、スポーツ、女性は、ショッピング、休息となり、ともに読書は第4位であった。ちなみに前回の調査(昭和50年に実施。神山町内の中学生の父兄を対象とし、365通の回答を得ている)では、第1位ラジオ・テレビ(48.3%)、第2位ごろ寝・休息(13.8%)、第3位読書(11.8%)で、スポーツ(11.2%)、買物(5.2%)がそれに続いていた。その他の回答内容は、釣り(1.9%)、家事(1.4%)、ガーデニング(1.1%)などであった。

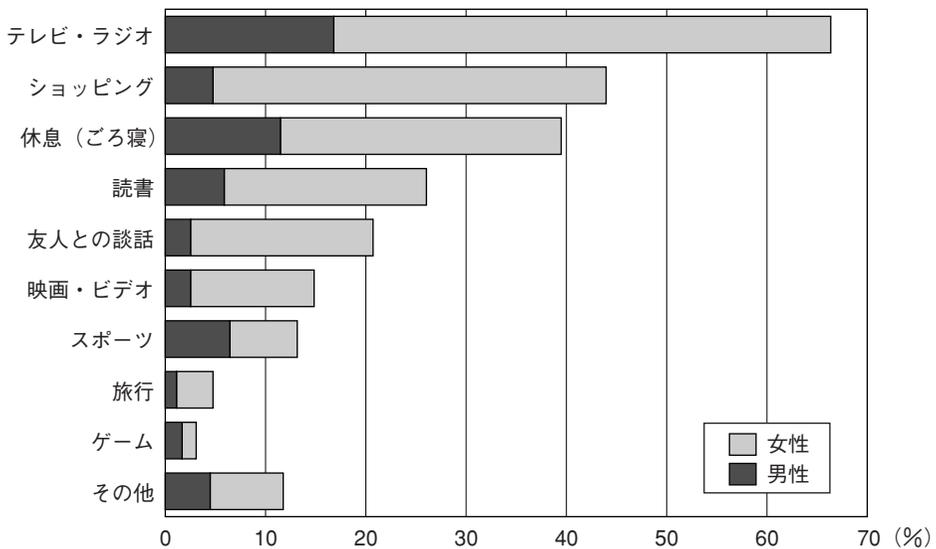


図2 余暇の過ごし方

問 2. (1か月の平均読書量) あなたは、1か月に平均何冊本を読みますか。(雑誌、漫画は除く)

問 3. (1か月の雑誌の平均読書量) あなたは、1か月に平均何冊雑誌を読みますか。

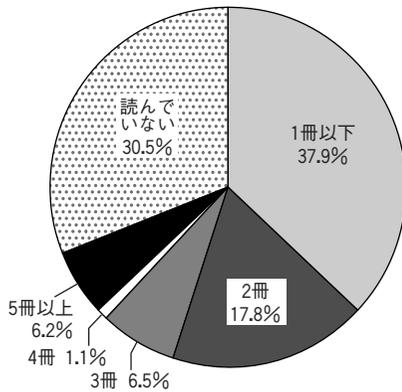


図 3 (読書量)

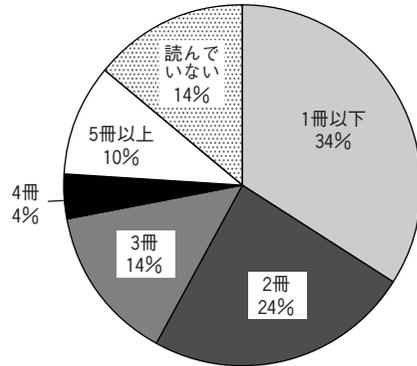


図 4 読書量 (雑誌)

分析：雑誌、漫画以外の本については、1か月に幾らかでも読書するとした回答が約7割を占めている(図3)が、その中で1冊以下とする回答が約半数を占めており、量的に多いとは言えない。しかしこれは、毎年本班が阿波学会総合学術調査で行っている他市町村の調査と同様の結果であり、神山町民の読書意欲が格別低いとは言い得ない。雑誌は2冊以上とする回答が半数以上で、本より高い比率を示している。まったく読んでいないとする人の比率は低い(図4)。

問 4. (読書の目的)あなたはどんな目的で本や雑誌を読みますか。(主なもの2つに○を)

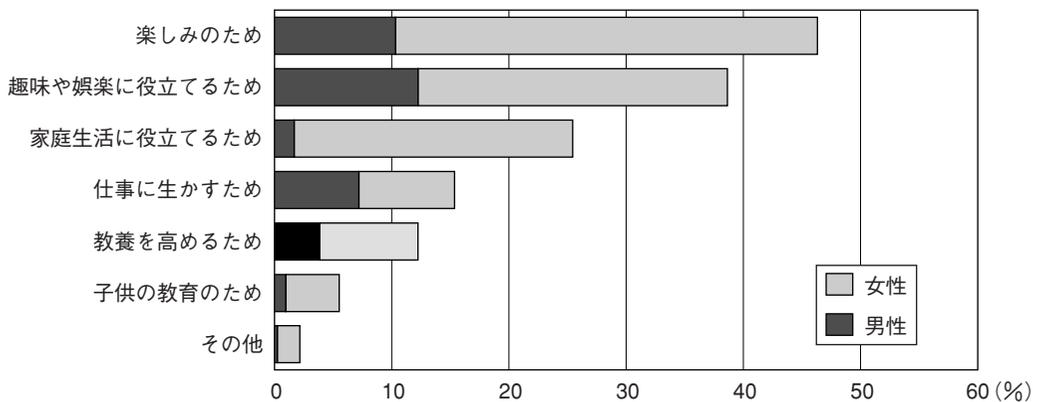


図 5 読書の目的

分析：男性は、趣味・娯楽のため、楽しみのため、仕事のため、と続くのに対して、女性は、楽しみのため、趣味・娯楽のため、家庭生活のためとなっている（図5）。また、前回の調査では、第1位趣味のため（25.5%）、次いで娯楽のため（24.3%）、なんとなく（17.6%）、教養のため（15.9%）などとなっている。

問5.（資料の入手もとについて）あなたは読みたい本や雑誌をどこで借りたり購入したりしていますか。（主なもの2つに○を）

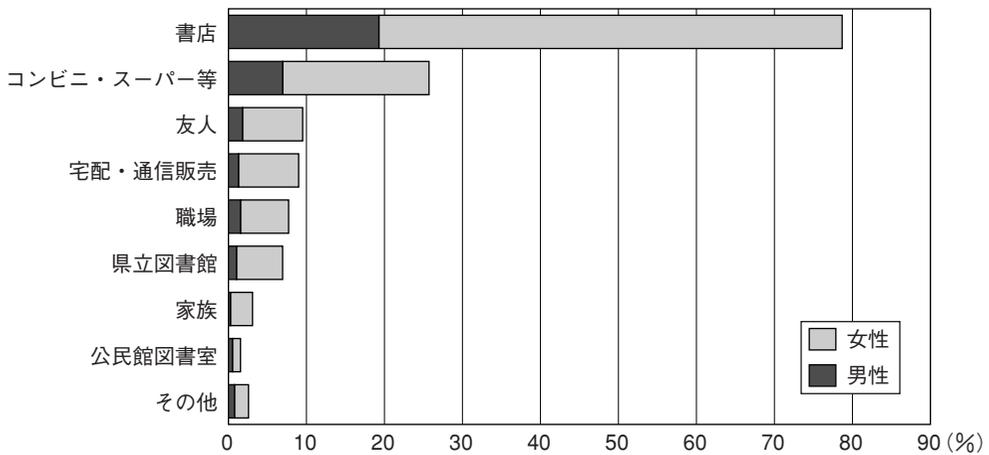


図6 資料の入手もと

分析：書店からとするものが最も多く、コンビニ、友人、通販と続く（図6）。県立図書館の利用が4.8%もあるのは、他の市町村と比較して、地理的に近いからであろう。コンビニの利用は昨年の穴吹町での結果に引き続き第2位となっており、今後定着していきそうである。

問6.（公民館図書室の利用頻度）あなたは、この1年間に公民館図書室を利用したことがありますか。

分析：利用したことがないという回答が非常に多くを占めている（図7）。同じように公民館図書室はあるが町立図書館がない由岐町の結果（平成6年）と比較しても、相当高い割合である。利用頻

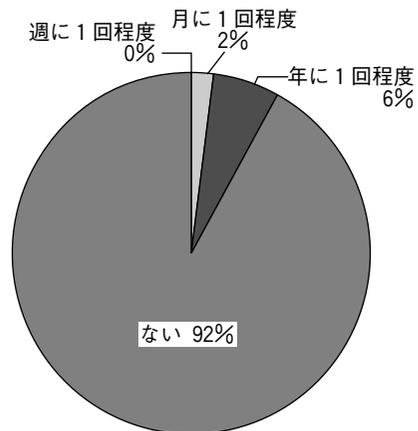


図7 公民館図書室の利用頻度

度で最も多い回答は年1回（6.1%）、次いで月1回（2.0%）だった。週1回利用している人は1人という結果だった。

問7.（公民館図書室を利用しない理由）（問6で「ない」と答えた人に）どのような理由で図書館を利用しないのですか。（主なものを2つまで○を）

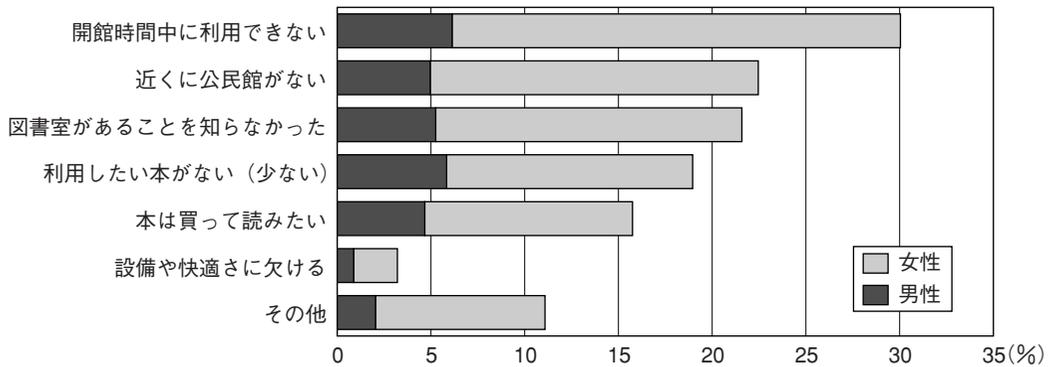


図8 公民館図書室を利用しない理由

分析：利用しない理由として、第1位開館時間帯、第2位地理的不便、第3位公民館図書室の存在を知らなかった、第4位利用したい本がない、第5位本は買う、という回答だった（図8）。設備についての不満は少なかった。男女別に見れば、男性のほうが公民館図書室の蔵書について不満だと感じている人の割合が高く、女性は公民館図書室の存在を知らなかった、地理的不便のため利用できないとしている人の割合が高い結果となった。その他の回答内容は、忙しい（3.6%）、読まない（1.3%）であった。

問8.（他の読書施設の利用）あなたは、神山町公民館図書室以外の読書施設を利用していますか。（自由に○を）

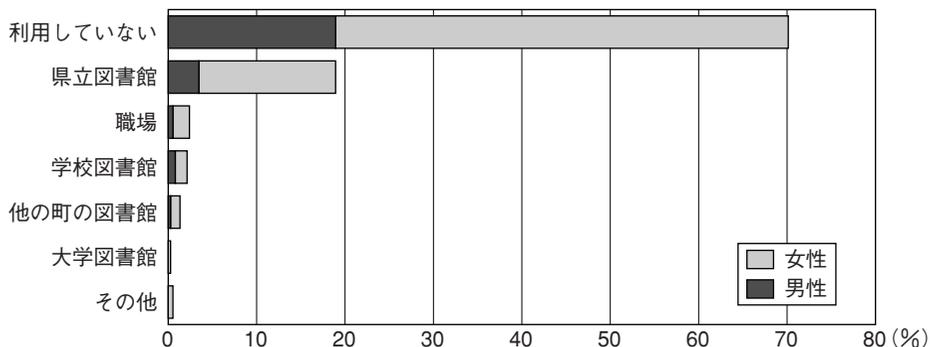


図9 他の読書施設の利用

読書班

分析：公民館図書室以外の読書施設は県立図書館の利用が最も多かった（図9）。次いで職場、学校図書館、他の町の図書館（鳴門市立図書館0.6%・板野町文化の館図書館0.3%・石井町公民館図書室0.3%）、大学図書館の順となっている。ただし、回答の73.1%は、公民館図書室以外の読書施設を「利用していない」であった。

問9.（県立図書館を利用した理由）問8で「県立図書館を利用したことが『ある』と答えた人に」県立図書館を利用したのはどんな理由からですか。（主なもの3つまで○を）

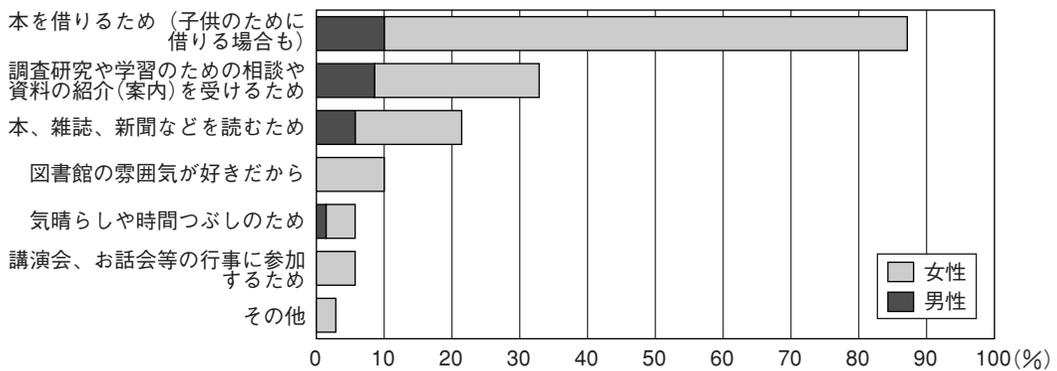


図10 県立図書館を利用した理由

分析：講演会、お話し会等の行事に参加するため、図書館の雰囲気が好きだからと回答したのは女性のみであった（図10）。

問10.（他の読書施設を利用しない理由）（問8. で「神山町公民館図書室以外の読書施設を『利用していない』と答えた人に）読書施設を利用しないのはどんな理由からですか。（主なもの2つまで○を）

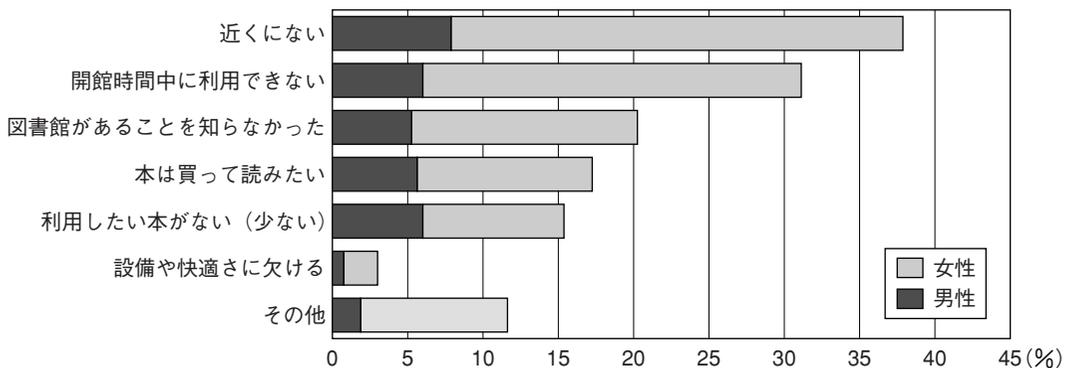


図11 他の読書施設を利用しない理由

分析：読書施設を利用しない最も多い理由は、その読書施設との地理的距離にあり、近くにない（38.4%）、開館時間中に利用できない（31.5%）の二つであった（図11）。また、存在を知らないという回答が第3位（20.5%）と多く、広報について考えなければならない順位にある。

問11.（読書施設への期待）県内には26市町村に図書館がありますが、あなたの町についてはどうお考えですか。

分析：町立図書館を設置してほしい、または公民館図書室の整備・充実を行ってほしいという回答が77.2%を占めている（図12）。

その他の回答内容は、どうも思わない、移動図書館を配備してほしい、今のままでよい、などであった。

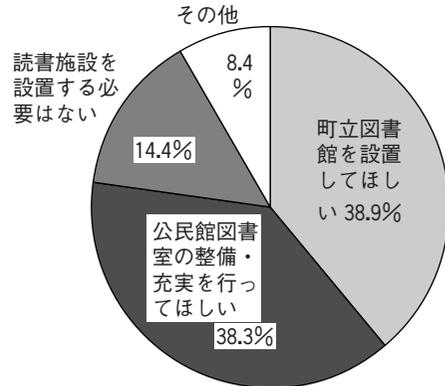


図12 読書施設への期待

問12.（図書館協力制度の認知度）神山町公民館（教育委員会）を通して、他の公共図書館の本を利用できることを知っていますか。

分析：知らないという回答が、全体の82.6%にのぼっている（図13）。昨年の穴吹町の調査の時と同様に、問6の結果から公民館図書室の利用者、未利用者の別にみると、公民館図書室を利用したことがあるとした30人のうち、36.7%にあたる11人がこの制度を知っていた。これに対し、未利用者329人中、この制度を知っているとしたのは15.0%にあたる51人であった。

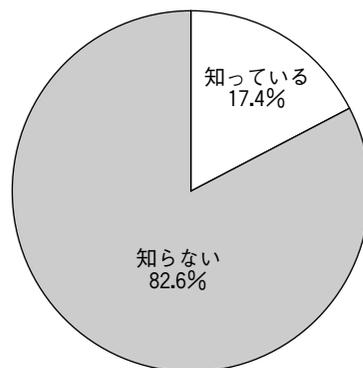


図13 図書館協力制度の認知度

問13.（COMETの認知度）家庭からパソコン等を通じて、県立図書館等の情報を利用できる徳島県文化情報システム（COMET）が、平成2年から稼働していますが、あなたはこのことについてご存じですか。

分析：COMETについて知っているという回答が11.2%、知らないという回答は88.2%で（図14）、これは同じ質問を行った那賀川町の結果（平成7年）と同様である。

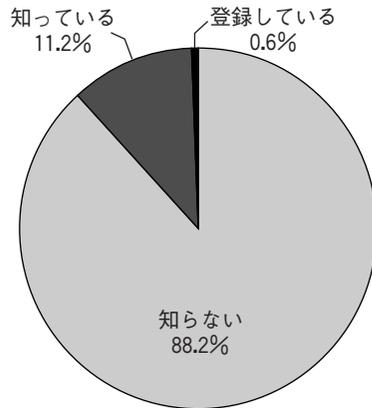


図14 COMETの認知度

問14. 神山町公民館図書室（教育委員会）や県立図書館への希望があればなんでも書いてください。

もっと公民館図書室の存在やサービス内容をPRしてほしいという意見が最も多く、12件あった。これは知っていれば利用したかったということで、図書館サービスに対する要求は町民の中に確実に存在することを示している。続いて、移動図書館の設置を（4）、気楽に利用できる環境を（3）、町立図書館の設置を（2）となっている。幅広い分野の本を入れてほしい（2）、土・日・祝日に利用できるように（1）、もっと新しい本を入れてほしい（1）、読み終えた本を引き取ってほしい（1）、といったサービス内容についての意見が他の町に比べて少ないのは、町立図書館等の読書施設が充実していないため、まず施設を設置してほしいという要求が先に立つものと思われる。また、町立図書館がないために、図書館サービスについての具体的なイメージや要求を持ちにくいのではないだろうか。

また、県立図書館への希望としては、県立図書館で借りた本を公民館図書室に返却できたらいい、開館時間を延長してほしい、という意見があった。

2) 小学3年生から中学生対象

このアンケートは、神山町内の小・中学校の協力のもとに、小学3年生から中学3年生の全員に対して行い、507人から回答を得た（表2）。以下にその分析を行う。

表2 男女・学年別人数

	小学3年	小学4年	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年	学年無回答	計
男子	28	35	30	34	32	43	50	2	254
女子	26	30	28	23	33	26	36	1	203
性別無回答	0	1	4	8	6	18	5	8	50
計	54	66	62	65	71	87	91	11	507

問1. あなたは、6月1か月の間に、本を何さつ読みましたか。（マンガやざっしはかぞえないでください。）

問2. あなたは、6月1か月の間に、ざっしを何さつ読みましたか。（マンガざっしは

かぞえないでください。)

問3. あなたは、6月1か月の間に、マンガ（マンガざっし、コミックなど）を何さつ読みましたか。

問4. あなたは、6月1か月の間に、カセット・CD・ビデオなどをいくつ見たり聞いたりしましたか。

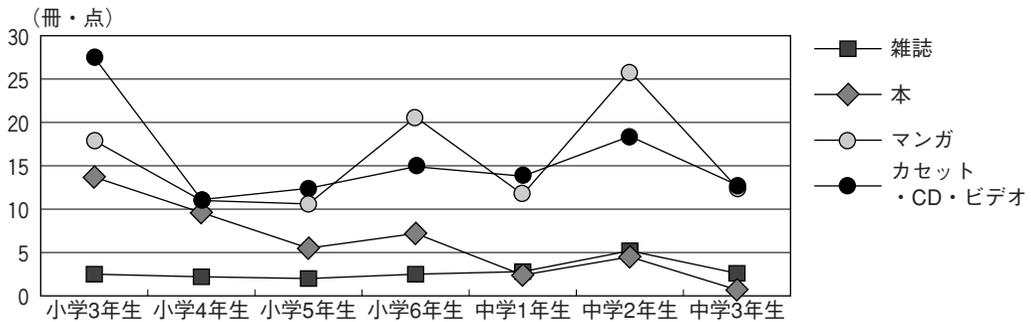


図15 本・雑誌・マンガの読書量およびA Vの視聴量

分析：雑誌・マンガを除く本の読書量は学年が進むにつれて減少する傾向が見られる(図15)。雑誌の場合は、学年による変化は特に見られない。A V、マンガの読書量に学年により開きが見られるのは数人の児童が特に高い読書量・視聴量を示しているためであり、それを除くとほぼ平均化される。ただしマンガについては、それ以外の本や雑誌に比べて、平均読書量がどの学年においても多くなっている。

問5. (資料の入手もとについて) あなたは、本やざっしをどのようにして、かりたり買ったりしていますか。いくつでも○をつけてください。

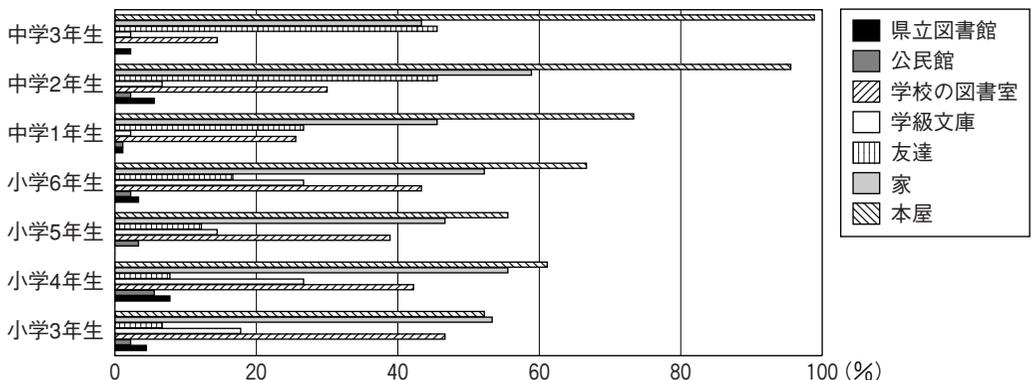


図16 資料の入手もと

読書班

分析：本屋で買う、家にあるものを読む、という回答が多いが、学年が進むにつれて本屋で買う、友だちからかりる、の割合が増えている（図16）。また、中学生では学級文庫や学校の図書室の割合が、小学生に比べて低い。

問 6.（学校図書室の利用頻度について）6月1か月の間に、学校の図書室に行きましたか。1つだけに○をつけてください。

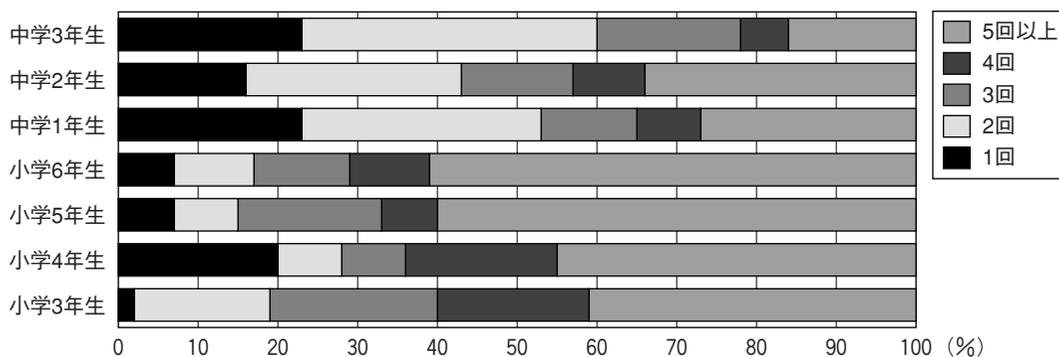


図17 学校図書室の利用頻度

分析：小学生では5回以上行ったという回答が非常に多いが、中学生になると1回、2回という回答が増え、中学3年では1回、2回という回答が4割を占めている（図17）。これは本班が阿波学会総合学術調査で過去4回行っている、児童・生徒を対象とした調査の、他の町の結果と同様の傾向である。

問 7.（学校図書室の利用目的について）なんのために学校の図書室に行きましたか。いくつでも○をつけてください。

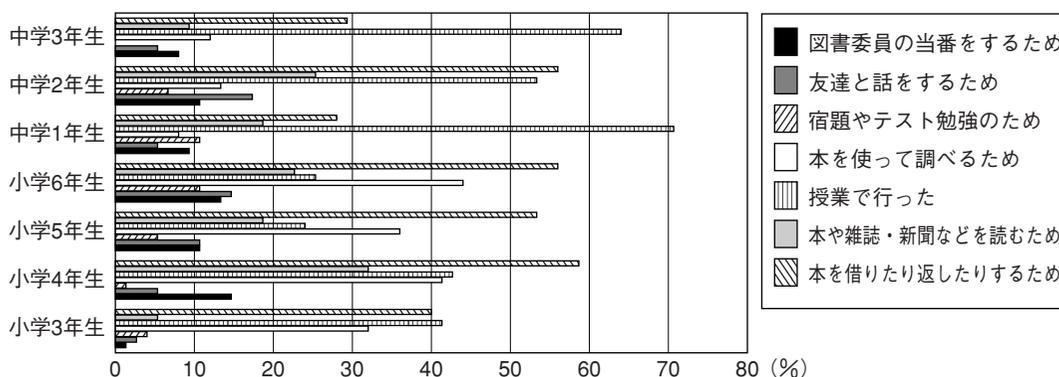


図18 学校図書室の利用目的

分析：中学生では授業で行ったという回答が多く、小学生では本を使って調べるためという回答が中学生に比べると多い（図18）。小学生のほうが、授業や宿題のためでなく、人的に興味を持ったことについて調べ物をするだけの、時間的なゆとりがあるのであろう。

問 8.（公民館図書室の利用について）6月1か月の間に公民館図書室に行きましたか。

分析：行かなかったという回答が9割以上にのぼっている。これは町立図書館のある他町に対して行った、町立図書館の利用についての調査結果と比べても割合が高いほうであり、公民館図書室の限界が見える結果となった（図19）。（北島30%、日和佐46%、井川62%）

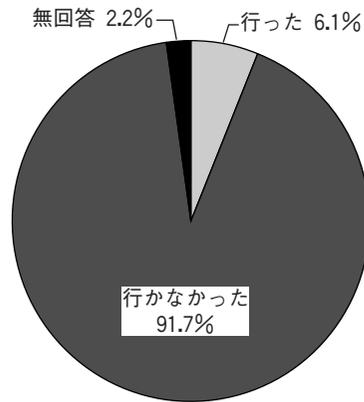


図19 公民館図書室の利用

問 9.（県立図書館の利用について）6月1か月の間に県立図書館に行きましたか。

問10.（県立図書館の利用目的について）県立図書館に行った人だけにお聞きします。図書館には何のために行きましたか。いくつでも○をつけてください。

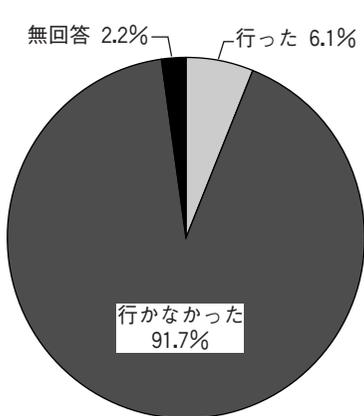


図20 県立図書館の利用

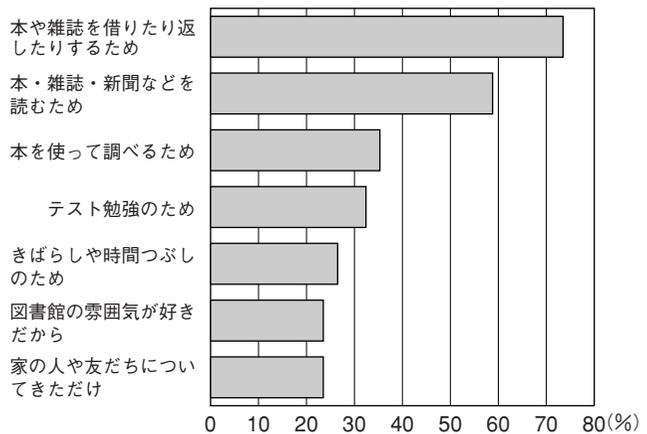


図21 県立図書館の利用目的

分析：これも行かなかったという回答が9割となっている（図20）。県立図書館の利用に関する問を設けたのは、神山町が他の市町村と比べて県立図書館に近い、ある程度利用があるのではないかと予想してのことだったが、自分で車を運転できない小・中学生

には、月に1度でも利用しやすい距離ではないようである。行くと答えた34人の利用目的も、貸出・返却や調べものという明確な目的が多く（図21）、雰囲気が好きだから、家族や友人についてきただけ、といった理由で気軽に立ち寄れる距離ではないらしい。

問11.（読書環境について）つぎのことがらについて、あてはまるものがあればいくつでも○をつけてください。なければつけなくてもかまいません。

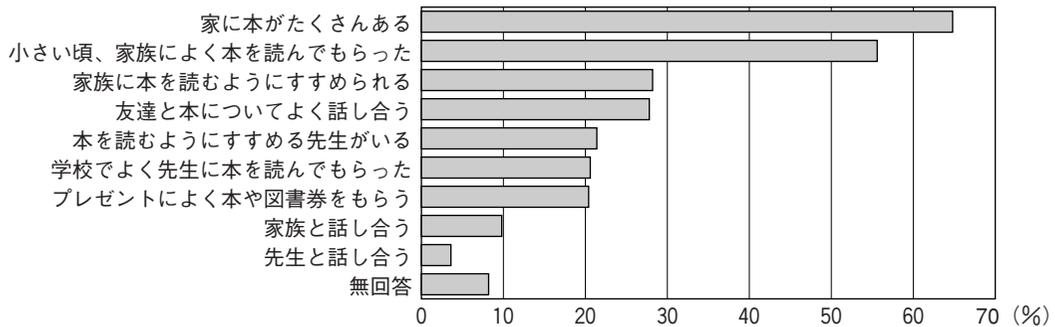


図22 読書環境

分析：家に本がたくさんある、家族によく本を読んでもらった、の二つが特に多く、第3位も家族に本を読むようにすすめられる、である（図22）。過去4回の調査でもほぼ同様の結果であり、実際に家庭での読書環境に恵まれていることもあるのであろうが、小・中学生にとっては家庭内のことが特に強く印象づけられるためということもあるのかもしれない。

4. 学校図書館

町内には小学校6校、中学校2校がある。蔵書数は、各校とも1万冊以下で、年間の資料費はだいたい15万円前後であるが、20万円をこえるところもあった。図書館担当の教師はいるが、教科や学級の担任との兼任である。各校とも、図書館の雰囲気は、校舎内の位置や窓・照明により、明るく入りやすく感じられた。じゅうたん敷にしたり、他の教室に優先して空調設備を付けたりしているところもあった。

町の学校全体の取り組みなのか、自然に広がっている動きなのか、朝の10～20分間に、児童・生徒も教師も静かに本を読むという読書の時間を設けているところが多かった。短い時間なので集中しやすらしく、児童・生徒が意欲的に取り組んでいる様子が先生の話からもうかがえて印象的であった。

中学校では、教師・生徒ともに時間的余裕が少なくなるためか、開館時間も昼休みのみで小学校ほどには利用されていないようであったが、授業での利用はよくあるようである。

また神山東中学校では、生徒の希望によって図書館をじゅうたん敷にしたり、読書の時間も、今は隔週1時間になっているが、来年からは生徒の希望で15分間のものも始めるなど、生徒の積極的な要求を、教師がうまく読書活動の発展に結びつけているように思われる。

公民館図書室との連携については、公民館図書室を利用しているという学校もあったが、全体にあまり密に連携をとっているようではなかった。

5. まとめ

われわれ、県立図書館職員からなる読書調査班では、昭和50年の神山町での総合学術調査にも参加して同様の調査を行っている。ここで、今回の調査のまとめにかえて、この前回の調査との比較を行い、さらに将来の神山町の図書館行政への考察を行いたい。

前回の調査では、中学校在学中の生徒の保護者を対象として「情報を得る手段」「県立図書館の利用状況」「最近（3か月間）の読書状況」「読書の動機」「読書の目的」「本の入手方法」「図書館の蔵書充実の希望」「余暇の過ごし方」「県立図書館への意見」を問うている。このうち「情報を得る手段」と「読書の動機」と「図書館の蔵書充実の希望」は今回の調査では聞いていない。これは、最近の総合学術調査における読書調査でも取り上げられていないためである。

「県立図書館の利用状況」は前回33.2%で今回19.7%の利用率になっている。ただし、前回の調査では、県立図書館が行っていた巡回図書（移動図書館）の利用や、文書や電話による参考質問も利用率の中に計上されている。県立図書館による移動図書館サービスは町立図書館や公民館などの町の読書施設の支援を中心としたサービスに移行するために廃止されているが、町自身によりこの種のサービスが実行されたなら、このかつての利用者層は復活するものと思われる。このことは、今回の調査の間7で「公民館図書室を利用しない理由」としてあげられた回答の1位が開館時間であり2位が地理的不便であることから推定される。

「最近（3か月間）の読書状況」は、前回読んでないと回答した率は44.6%であるのに対して今回は30.5%になっている。設問の方法が異なっているため、不正確な分析かもしれないが、町民の読書量が増えており、読書欲求も増加しているのではないかと推察される。

「読書の目的」は、前回調査とほぼ同じ傾向になっている。

「本の入手方法」は、前回に図書館・公民館で借りるとしていたのが6.1%であるのに対して、今回は約10%になっている。ただし、今回は複数回答を認めている。読書施設の利用欲求の高まりが推察される。

「余暇の過ごし方」では、余暇を読書で過ごす人は前回3位だったが、今回4位になっ

ている。今回の調査では複数回答を認めているため、回答率では前回の11.8%から25.9%に増加している。

「県立図書館への意見」では、今回は神山町公民館図書室への要望も併せて聞いているため、明確ではない。が、奇しくも前回県立図書館に対して移動図書館車の回数を増やすよう要望していたのと同じ回答数で町に対して移動図書館や町立図書館の設置が求められている。

以上、前回調査と今回調査の比較をしながら、読書状況の実態や意識を見てきたが、神山町において、読書環境の整備・充実が望まれていることには変化がないように思われる。また、その際、町域の広さを考えれば、移動図書館サービスも行うべきであろう。この2点の実現を切に望むものである。